

見えにくさのある小学生の数の調査

視力には、眼鏡をかけずに測ったときの視力（裸眼視力といいます）と、眼鏡をかけて測った最も良い視力（矯正視力といいます）があります。近視や遠視や乱視などだけであれば眼鏡をかけたら見やすくなります（矯正視力が良いです）。弱視や目の異常があるときは眼鏡をかけても見えにくい（矯正視力が悪い）です。

（※眼鏡の度数が合っていないときは、眼鏡をかけても見えにくいので、矯正視力は眼科で検査してもらいます。）

しかし世の中には、眼鏡をかけても視力があまり良くないという人もいます。少し見えにくいという人からとても見えにくい人、全く見えないひとまでさまざまです。そして、見えにくさというのは、周りからはあまり気が付かれにくい場合があります。

そこで、見えにくさのある子どもさんがどのくらいの数いるのかを調べるため、京都府内の各小学校にご協力いただき、通っている小学生の学年と視力のデータを集めます。（お名前など個人が特定できるデータは使いません。）



イラストは『えがおのいっぽ（京都府HP）』から

見えにくさのある子どもさんの中には、たとえばルーペなど、見えにくいときに使うと便利な道具（視覚補助具といいます）を使ったり、色々工夫することによって、学校生活や勉強がしやすくなる場合があります。（見えにくさのある人の使いやすい道具や工夫は一人ひとり違います。）

京都府立医科大学 眼科 担当： 鎌田、池田、外園
電話番号：075-251-5578（平日9時～17時）